

第26回 原子燃料分科会 議事録

1. 日 時：平成26年3月7日(火) 13:30～15:30
2. 場 所：日本電気協会 4階 CD会議室
3. 出席者(敬称略,順不同)
 - 出席委員：寺井分科会長(東京大学), 大山幹事(東京電力), 山本(名古屋大学), 戎家(グローバル・ニュークリア・フューエル・ジャパン), 小澤(日本原子力研究開発機構), 天谷(日本原子力研究開発機構), 吉田(日本原燃), 原田(中部電力), 平川(原子力安全推進協会), 吉谷(中国電力), 荒川(北陸電力), 柳沢(電源開発), 高松(日本原子力発電), 佐々木(三菱原子燃料) (14名)
 - 代理委員：伊藤(東北電力・阿部代理), 藤塚(四国電力・青木代理), 河野(九州電力・高橋代理) (3名)
 - 欠席委員：山中(大阪大学), 坂本(北海道電力), 福原(関西電力), 本田(ジブコロダケ), 松浦(原子燃料工業) (5名)
 - オブザーバ：高木(東京電力)
 - オブザーバ(新委員候補)：小川(長岡技術科学大学), 高木(東京都市大学), 黒崎(大阪大学), 亀山(東海大学), 湊(日本原子力研究開発機構), 北島(電力中央研究所), 松井(エネルギー総合工学研究所), 関(三菱重工業), 本谷(東芝), 岩田(日立 GE ニュークリア・イジー) (11名)
 - 常時参加者：上村(原子力規制庁) (1名)
 - 事務局：荒川, 鈴木, 富澤, 芝(日本電気協会) (4名)

4. 配付資料

- 資料 No.26-1 第25回 原子燃料分科会 議事録(案)
- 資料 No.26-2-1 原子力規格委員会 原子燃料分科会 委員名簿(案)
- 資料 No.26-2-2 原子力規格委員会 原子燃料分科会 検討会委員名簿(案)
- 資料 No.26-3 原子燃料管理検討会活動状況
- 資料 No.26-4 取替炉心安全性評価検討会活動実績
- 資料 No.26-5 平成25年度活動実績及び平成26年度活動計画(案)
- 資料 No.26-6-1 「各分野の規格策定活動」平成26年度見直し(案)
- 資料 No.26-6-2 平成26年度各分野の規格策定活動(原子燃料分野)新旧比較表
- 参考資料-1 第49回原子力規格委員会 議事録(案)
- 参考資料-2 分科会委員構成の中立性,透明性について
- 参考資料-3 「学協会規格整備計画52項目」の見直し実施状況(経過報告)
- 参考資料-4 第1回 日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム(案)
- 参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会規約

5. 議事

- (1) 会議定足数の確認および代理出席者等の承認について

事務局から代理出席者 3 名及びオブザーバ 1 名の紹介があり、分科会長の承認を得た。出席者数は代理出席者を含め 17 名で、開催条件である委員総数(22)の 2/3 以上の出席を満たしていることを確認した。

また、常時参加者 1 名(上村(原子力規制庁))の紹介があり、分科会で承認された。

(2) 副分科会長の指名

分科会長より、副分科会長に山本委員が指名された。

(3) 第 25 回原子燃料分科会 議事録(案)の承認等

事務局から、資料 26-1 に基づき説明し、正式な議事録とすることが確認された。

また、参考資料-1 に基づき前回原子力規格委員会の議事録(案)の報告があった。

(4) 委員の変更

1) 検討会委員の変更(審議)

事務局から、資料 26-2-2 に基づき検討会委員の変更の紹介があり、委員候補は、挙手により委員として分科会で承認された。新委員には事務局より委嘱状を発送する。

【原子燃料品質検討会】(3名)

大山(東京電力)、浅原(関西電力)、齋藤(三菱原子燃料)

【原子燃料運用検討会】(1名)

福原(関西電力)

【原子燃料管理検討会】(6名)

北島(電力中央研究所)、福原(関西電力)、井勝(原子燃料工業)、渡邊(東北電力)、井上(東芝)、安田(日立 GE ニュークリア・エッジ-)

【取替炉心安全性評価検討会】(4名)

竹野(日本原子力発電)、牛尾(原子燃料工業)、市田(三菱原子燃料)、福原(関西電力)

2) 分科会委員の変更(報告)

事務局から、参考資料-2(基本方針策定タスク資料)に基づき、分科会委員構成の見直し(分科会の公正性の観点から、各業種比率 1/3 以下とすることで委員増員を行う)の方針の報告があった。

また、資料 26-2-1 に基づき新委員候補の紹介があり、新委員候補については、3 月 31 日の原子力規格委員会で承認後正式な委員となる旨、事務局より報告がなされた。また、規格委員会承認後、新委員には事務局より委嘱状を発送する。

(新委員候補)

関(三菱重工業)、本谷(東芝)、岩田(日立 GE ニュークリア・エッジ-)、湊(日本原子力研究開発機構)、尾形(電力中央研究所)、北島(電力中央研究所)、松井(エネルギー総合工学研究所)、楠野(エネルギー総合工学研究所)、小川(長岡技術科学大学)、高木(東京都市大学)、黒崎(大阪大学)、亀山(東海大学)

(委員変更に伴う新委員候補)

河野(九州電力)、伊藤(原子燃料工業)、本田(ジルコプロダクツ)

(5) 平成 25 年度検討会活動状況 (報告)

1) 原子燃料管理検討会

原子燃料管理検討会高木幹事から、資料 26-3 に基づき活動状況の報告があった。

(主なコメント等)

- ・今回策定の規格は、規程 (JEAC) , 指針 (JEAG) のどちらにするのか決まっているのか。どちらになるかは継続議論となっている。
- ・技術根拠集の取り扱いはどのようになっているのか。扱いはまだ決まっていないが 原子力規格委員会基本方針策定タスク(タスク) で今後検討する。
- ・原子力学会の標準委員会では、テクニカルポ ート(TR) と標準は、投票の有無で決めている。電気協会でも学会同様に投票の有無も含めて検討するのか。今後タスクで検討したい。

2) 取替炉心安全性評価検討会

原田委員から、資料 26-4 に基づき活動状況の報告があった。

(主なコメント等)

- ・スケジュールに規制への協議とあるが、重要だと思うが実現性はどうか。策定中の規格は、エンドース (規制庁での技術評価) されることが目的なので、その方向で取り組みたいが、具体的には検討中である
エンドースする方向で、積極的に取り組むこととなっており、枠組みができれば分科会に報告できると思う。
スケジュールに規制への「仮提案」と記載しているが、「仮提案」とは、民間で考えていることと規制側で大きく方向性が間違っていないかの意見交換の位置づけである。
- ・規格の目的は、サイクル延長であるのか。
サイクル延長についても検討がなされており、影響がある項目が追加され JEAC4211 に取り込まれている。昭和 52 年原子安全委員会「取替炉心検討会報告書」の洗い出し (見直し) を行いたい。
- ・洗い出しのその後は
本分科会で以前委員より、昭和 52 年「取替炉心検討会報告書」は古くなっておりそのまま使用していいのかとの指摘があり、その後、新しい知見も出てきたことから、(報告書を) 見直した場合に合理的に説明できるかの視点で検討している。長期サイクルだけに直接関係づける位置づけのものではない。

(5) 平成 25 年度活動実績及び平成 26 年度活動計画について (審議)

事務局から、参考資料-3 に基づき原子力関連学協会規格類協議会で検討 (見直) している民間規格として整備すべき民間規格 (83 項目) の状況報告がなされた。その後、分科会委員等 (原子燃料管理検討会：大山幹事 (検討会委員) , 原子燃料運用検討会：原田委員 (検討会副主査) , 原子燃料管理検討会：高木検討会幹事、取替炉心安全性評価検討会：原田委員 (検討会幹事)) より資料 26-5 に基づき、各検討会の平成 25 年度活動実績及び平成 26 年度活動計画について説明がなされ、一部修正し、挙手により承認され、3月31日の原子力規格委員会に上程することとなった。

(主なコメント等)

- ・原子燃料品質検討会は、「制定」ではなく「改定」に修正
- ・新安全基準の策定状況を見極めて規程の改定を行うことになっているが、見極めの状況は、（新安全基準でも）旧省令63号の内容は変わっていないので、取り込み事項はないと考える。
- ・旧省令63号の内容中身は変わっていないが、今後、規制庁での検討状況を見て規格を改定するのか。
現状、規制庁での検討状況が判断できないので明確になった時点で検討する。
- ・改定の時期は考え方があるのか。5年ごとに行うのか。
規格は新技術の開発状況に応じて改定されることにより、利用価値を維持する必要があり、定期的な見直しを行っている。また5年ごと規格の全面的な見直しを検討することとなっている。

（6）各分野の規格策定活動(案)の審議

事務局から、資料26-6-1、26-6-2に基づき、原子燃料分野における平成25年度各分野策定活動計画についての説明があった。審議の結果、一部修正することで挙手により承認され、資料26-6-1を3月31日の原子力規格委員会に報告することになった。

（主なコメント等）

- ・現行規格のJEAG4211,JEAG4212をJEACに修正。
- ・ウオターロッドの「オ」を小文字に修正。
- ・原学会報告書は標準でないので、「学会標準」を「学会標準類」に修正。
- ・JEAG4204は「制定」ではなく「改定」に修正。
- ・「引き続き調査・検討事項の検討を継続する。」を「引き続き調査・検討する」に修正（2か所）。
- ・「・・・燃料発生時の対応規程」を「・・・燃料発生時の対応規格」に修正。

6．その他

（1）シンポジウム

事務局から、参考資料-4に基づき5月16日に開催予定の原子力規格委員会シンポジウムの紹介があった。寺井分科会長、大山幹事より、委員に対して、この内容で関係個所に周知してほしいとの依頼があった。

（2）その他

次回の分科会開催9月第1週を目途に開催することで、各委員にメールで調整する。

以 上